

高齢者の自動車運転を支援する

特集にあたって

あなたの対象者には、まだ運転を続けられる可能性はないですか？ または、今、運転をやめることが交通安全と対象者の利益になるのでしょうか？

OTの自動車運転へのかかわりは、1980年前後に切断者や脊髄損傷者を中心とした肢体不自由者を対象として始まった。しかし、近年は主に脳血管障害等による高次脳機能障害者への運転にかかわるOTが増加している。一方、認知機能が低下した高齢者が引き起こす交通事故が社会の大きな問題となっている。この問題に対して、われわれOTは今までの実践を活かして貢献できる可能性を持っているが、制度面が未整備であることや、高齢者にかかわっているOTが運転支援にかかわった経験が少ないことも障壁となっている。そこで高齢者の運転に関する各分野のエキスパートにご協力いただき、現在高齢者にかかわっているOTが、運転相談にかかわるヒントとしていただければと考え、本特集を企画した。

米国作業療法協会では「Driving and Community Mobility」という認定制度があり、OTが自動車の運転に加えて地域移動を支援する専門職であることを示している。本邦でも近い将来、障害の有無にかかわらず運転という作業を、OTがあたり前に扱う日がくることを願っている。

(藤田佳男)

企画担当

藤田佳男 (千葉県立保健医療大学, 作業療法士)

江藤文夫 (国立障害者リハビリテーションセンター, 顧問・医師)

澤 俊二 (金城大学, 作業療法士)